

禎瑞校区タウンミーティング開催報告	
日時	令和3年11月5日（金）10：00～11：30
場所	禎瑞公民館2階ホール
参加者	【地域側：11人】 禎瑞校区連合自治会長、上組自治会長、下町自治会長、八幡自治会長、高丸自治会長、難波自治会長、社会福祉協議会禎瑞支部長、交通安全協会禎瑞支部長、干潟再生プロジェクト代表、禎瑞共楽会会長、禎瑞生産組合副会長 【行政側：5人】 市長、禎瑞公民館長、農林水産部長、環境部長、建設部長
次第	1 開会 2 挨拶（禎瑞校区連合自治会長） 3 市長挨拶・事業説明 4 意見交換：テーマ「禎瑞の干潟の環境改善について」（現状と課題説明及び参加者全員による話し合い） 5 まとめ・閉会
概要	
自治会長挨拶	①加茂川河口の堆積土砂と雑木による水害等の調査・対策、②ヘドロ化した干潟の改善をお願いをしたい。昔は海苔養殖やトリカイ、アサリの漁獲が盛んだった。今は貝も育たない干潟になっている。 西条の干潟は全国でも有数の広さである。ぜひ環境改善に対してご意見をいただきたい。
市長事業説明	・コロナウイルス対策については、ワクチン接種の安全安心な環境整備と、市民生活を取り戻すため経済対策に重点を置く。 ・西条市の将来推計人口は30年間で約28%減少（2015年 108,174人 ⇒2045年 78,307人） ・人口減少対策の1つに移住推進に力をかけている。今年度は「SDGs未来都市」の選定も受け、経済・社会・環境面から「持続可能」なまちづくりを進めていきたい。
テーマに関する現状等（プロジェクト代表）	【ドローンにより撮影した写真をもとに説明】 ・古川橋から産業道路の新加茂川大橋下まで大量の堆積土砂があり、山のようにになっている堆積土砂の上は水流もなく、雑木や多量の草が生茂り、高さ4～5mの木が生えている。 ・新加茂川大橋から少し河口の地点では、干潮時、砂地はほとんどなく、ヘドロに覆われている。大潮の時でも水面から堆積土砂が確認できる。 ・サラサラした砂の上にヘドロが堆積しており、浅い所で10cm、深くて80cm程度ある。 ・龍神社前の最も深い所では、120cm程度のヘドロが堆積していた。 ・10月初旬には、小指の先ほどの二枚貝がたくさん死んでいた。掘り返すと、ドブのような悪臭があり、生物は見つけられなかった。 ・水流・水量の多い「みおすじ」と呼ばれる部分では、サラサラした砂地が残っているが、一方で干潟全体はヌメっとしたヘドロ状になっている。 ・昭和50年頃は、オオノカイやハマグリ、マテガイ、トリカイが多く獲れていたようだ。
参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><河川土砂の撤去について></p> <p>禎瑞の干潟の環境改善の要望として、加茂川は愛媛県の管理であることは承知しているが、河口付近の堆積土砂対策（撤去）、ヘドロ化の改善のため、河川流量と森林を見直し、海苔養殖や二枚貝が生息できる干潟に戻ることを希望する。</p>	<p>財政や優先順位の問題がある中で、どうやって地域資源を守っていけるか。皆さんと協力・話し合いながら今後の対応を考えていく。</p> <p>加茂川は愛媛県の管理であり、市も近年の大雨など災害の激甚化に伴って、市内河川の土砂撤去を毎年お願いしている。県に確認したところ、川幅が比較的広がっている河口付近より、狭くて土砂が堆積しやすい部分・浸水被害が起こりそうな上流側を優先して撤去しているとのこと。</p> <p>また、古川橋から新加茂川大橋の間は、飛来してくる鳥の鳥獣保護区域に指定されており、県によると、過去、この区域の土砂を取ろうとした際に鳥への悪影響があるのでは、との声も上がったようである。</p> <p>ただ、今日のお話から、どんな状況であるかは理解したので、市として単に県へお願いするだけでなく、鳥獣保護区域内においてもできることを考慮した上で、撤去に向けた動きを取ってもらえるよう働きかける。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><黒瀬ダムからの放流量について> 渇水期でない時期も、もっと放流してほしい。 「想定外」の災害も増えてきているので、時代に 応じた規程（関係数値）の見直しは必要である と考える。</p>	<p>加茂川の上流には黒瀬ダムがある。ダムは愛媛 県管理であるが、水は操作規程に従い、放流し ている。 操作規程によると、神戸にある長瀬地点にお いて、流量が灌漑期に毎秒6.7トン以下の時 もしくは非灌漑期に毎秒4トン以下の時には、 ダムに水を溜めず流入分をすべて流している。 また、6月6日から9月15日の灌漑期には、 長瀬地点で毎秒2トンを下回る場合には、 ダムを放流して毎秒2トン を確保する規定である。 大雨の降る前には、洪水を防ぐため、事前 放流をし一定の水位に下げる。 水をもっと流してほしいとなると、この 規定を見直しいただく必要があるため、 皆様の声を県に伝えていきたいと考 える。</p> <p>また、地下水保全（塩水押し出し）のため の流量と干潟を守る流量は、別のものであ ると思う。加茂川の上流部を歩いた時に、 水はほとんど流れていなかった。 現在、地下水保全条例の策定に向けて、 この地下水は地域の財産「地域公水」であ るという認識を広げている。 一方で、干潟のことには手が及んでいなか った。今日のご説明で現状がわかったの で、今後の持続的な一次産業のあり方 には、どのようにすればたどり着けるか、 水温や栄養塩の問題も併せて取り組む。</p>
<p><ヘドロ対策について> 自然を相手に仕事をしている。一次産業 なくしては、生きていけない。次世代に この恵みを残していくために、できるこ とを少しずつ始めたい。 来年度、干潟の耕うん（2ha）を試験 的に行う。土中へ酸素を供給し、バクテ リアの働きでヘドロを分解する。ほか へ悪影響が出ないことを確認できた ら、ヘドロ改善に向けて実践していき たい。</p>	<p>川は山と繋がっている。いわゆる干潟 の環境には森林整備（山からの栄養）が 大きく関係していることになる。 森林の主な機能は災害防止、水源涵養 がある。西条市の総面積約51,000ha のうち、森林面積は35,478haで、 林野率は約70%である。 市では、平成26年度から「水源の森 整備事業」として河川・溪流沿いの両 端100mの間を間伐して直接河川に 土砂が流出することを防ぐ取組みをし ている。 令和元年度からは「森林環境譲与税」 が本市に配分されることに伴い、年間 で約120haの森林整備を順次行う予 定である。 ただ、山林の面積が非常に大きいため、 120ha毎に整備しても50～60年を要 する。 また、SDGsの観点からは、今後50 年先の次世代に繋ぐような森林ビジョ ンを策定して、計画的・効果的な森林 整備を行う。</p>
<p><交通安全について> 旧県道は、交通量は減ったものの、 スピードを出す車が多いので、何らか の対策をとってほしい。</p>	<p>警察にも働きかける。通学路でもあ るので、道路管理者として、封鎖する （通行止め）か、スピードを落とさせ るための方法を考える。</p>
<p><清掃ごみの収集について> 芝桜（中山川土手）の草引きを年間 5回行っており、今年は10袋のごみを 排出した。 以前は、市でごみを引き取ってもら っていたが、最近では「年2回まで」と のことである。業者の引き取りも高 額であるため、市で対応してもらえ ないか。</p>	<p>市民の皆様と同様のお願いをさせて いただいている。 ごみとして排出するばかりでなく、 中には資源として、リサイクル可能 なものもあると思うので、民間の 引き取り業者等も活用していただ きたい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><市内けのPRについて> 最近に移住者も増え、市外の人から西条の良い点を聞くことが多くなった 本来は地元に住む人が、魅力あることをPRしていくべきだと思う。住んでいる人に対しても魅力を発信してほしい。</p>	<p>大切な視点である。市外の人で気づくことも多いが、住んでいる人が住み続けたいと思えるような「インナープロモーション」にも力を入れていく。</p>
<p><地域内での周知方法について> 現代の子ども達は、昔の干潟を知らないで、これが当たり前だと思っている。干潟の再生プロジェクトのことは、大人でもよく知らない人が多いので、子ども達へ伝えていくためには、子育て世代には必ず周知したい。 また、各団体の役員会等で決定が下りるまでに、もっと若い人が自由に意見を言いやすい環境を整えてほしい。</p>	<p>地域の団体活動において、次代を担う若い世代を巻き込んでいくべき。既存の団体内だけでなく、融和を図り、地域づくりにも繋げていきたい。</p>
<p>まとめ</p>	<p><市長> できる事・できない事もあり、優先順位をつけさせていただくこともあるが、市民の皆様の生命と財産を守っていく、そのために全力を尽くしていく。 いずれにしても「ここは愛媛県の管轄だから」というのは抜きにして、県も一緒に巻き込むような方法、あるいは県と一緒に、市民の皆様、団体と一緒に、私達は西条の資源を守っていく姿勢である。 <連合自治会長> 干潟の改善に向けては自治会ははじめ周知を広げ、より多くの皆様で取組んでいきたい。市にも今日の話し合いをきっかけとして、協力をお願いしたい。</p>

<当日の様子>

